

宮島自然植物実験所の紹介

広島文理科大学が昭和4年(1929)に創立された頃から、植物学の実習のために野外施設をつくらうという計画は、何度も立てられた。昭和5年の和歌山県高野山、八幡高原(8年)、宮島網の浦(15年)、道後山(26年)、八本松(30年)、極楽寺山麓(32年)などが候補地にのぼった。これらの計画の立案にあたっては、当時の教官・事務官の並々ならぬ努力があったことは、現在、実験所に保管されている文書からうかがえる。

結局、昭和38年11月に宮島の^{おおもと}大元公園から^{しもむろはま}下室浜にいたる国有地11.4haが広島大学へ所属となり、昭和39年7月に学内措置による理学部附属自然植物園として発足し、40年2月に建物が完成した。49年4月には国立学校設置法の一部改正により宮島自然植物実験所となり、助教授1名(助手の振替)が配置された。53年度には研究・管理棟(360㎡)の新営と、旧館の内部を改修して実習棟(97㎡)がつけられ、今日に至っている。

本実験所の設置目的は「宮島のすぐれた自然の立地条件を生かして、植物学に関する教育・研究を行う」である。「宮島のすぐれた自然」という地域性を強調しているところに特色がある。宮島は全島が国立公園特別地域であり、国指定の特別史跡・名勝でもある。弥山の一部には国指定の特別天然記念物「瀧山原始林」があることもよく知られている。宮島の植物については広島高師・文理大の時代から多くの研究がなされ、国際的にも高く評価されている。



図1. 宮島自然植物実験所研究・管理棟 (1991.10.26)

外国の植物学者の来訪も多く、中でも大正2年(1913)にベルリン植物園長であったH.G.A. Engler(1844-1930)が訪れたことは有名である。エングラーは近代的な植物分類体系を提唱し、また植物地理学分野でも大きな業績を残している。宮島へは早田文蔵東大助教授と乾環広島高師教授が案内した。エングラー博士は弥山で原始的な被子植物であるヤマグルマとマツブサを見て大いに感激し、「余は能くくんば一生茲に住し茲に死せんことを希ふ」(もちろんドイツ語でいわれたのだが、これは乾先生の名訳である)とまで宮島の植物相を激賞された。エングラー博士の強い

推せんによって、弥山原始林が天然記念物に指定された。

理学部生物学科植物学専攻の1期必修(他学部・学科は選択)として「宮島植物実習」が設けられている。この実習は植物の形態学・分類学・生態学・生理学・細胞構築学などの分野から総合的に行われるユニークなものである。

国立大学の植物学野外実習施設や植物園で、独自の必修

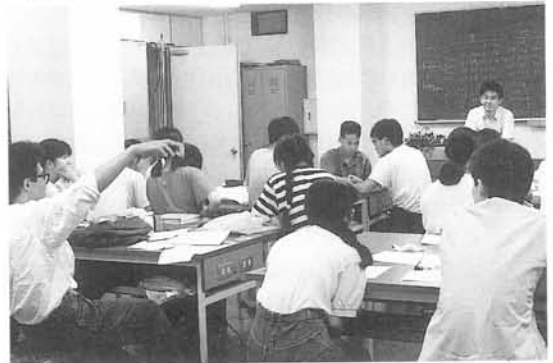


図2. 宮島植物実習(平成2年度1期)。光合成の実験結果についての活発な討論。(1991.7.15)

カリキュラムを持っている所は他になく、本実験所の大きな特色である。1期の4月下旬、あるいは5月の入学間もない頃に、第1回の実習が行われる。学生と教官が泊りこんで、宮島のすぐれた自然を有効に利用して、夜おそくまで実習に励んでいる。今年の実習(5月25日)では、にわか雨で全員ズブぬれになるという、宮島のきびしい自然の一面を知ることができた。実習の時には先輩も応援に来て、寝食を共にし、ひざを交えて語りあうことができるのも、この実習のすぐれた側面であろう。

実習は春期と夏期に分けて実施され、春季は植物の採集と標本の作り方の基礎を海藻・蘚苔類から維管束植物にわたって実習する。夏期は、現在、統一テーマとして陽葉と陰葉の問題を扱っている。宮島は海中・海浜から山地にいたる自然植生がよく保存され、海藻と森林の実習が続けて行えるのも宮島ならではの特色であろう。人里離れた環境を利用して、数学や物理学のセミナーに利用されることもある。これも宮島のすぐれた自然の生かし方であろう。

現在のスタッフは岩月善之助所長(併任)、関太郎助教授、向井誠二教務員、向井美枝子臨時用務員の3名である。本実験所は理学部植物学教室と密接な関係にあるため、両者の関係は49年に制定された規定で定められ、「宮島自然植物実験所運営委員会」が設置されている。研究の現状を紹介すると、宮島の植物の分類・生態学的研究が続けられ、宮島を核とした広島県の植物相も精力的に調査されている。土井美夫氏、竹田孝雄氏らの標本も寄贈され、広島県植物誌の完成を目指している。日本各地の植物のほか、南米パタゴニアやケニアの標本もあり、スタッフによる研究が行われている。現在、インドネシアのパンドン工科大学からU.A. Dasuki氏が学振の招へいで滞在し、西ジャバの蘚類の分類学的研究を、関と共同で行っている。(関 太郎記)

広島大学

生物學會誌

Bulletin of the Biological Society of Hiroshima University

(Seibutsugakkaishi)

第 57 号

中西 稔：水岡繁登先生.....	1
短 信	
西岡みどり：両生類研究施設の紹介.....	3
松本 淳：広島大学東千田キャンパスの植物 3. 変形菌類.....	9
豊原源太郎・網岡一平・高山喜晴：広島大学東千田キャンパスの踏跡群落	15
中越信和：世界景観生態学会議，1991年7月オタワ	21
猪股秀一：1990年度植物生態学野外実習報告～屋久島～	25
網岡一平・高山喜晴：1990年度植物分類学野外実習報告	31
研究室紹介	
片山平三郎：理学部附属臨海実験所紹介	35
関 太郎：宮島自然植物実験所の紹介	36
平成2年度修士論文紹介	37
平成2年度学士論文紹介	40
平成2年度総合科学部修士・学士論文紹介	41
会記・後記	42

広島大学生物学会

平成3年12月

The Biological Society of Hiroshima University

Hiroshima, Japan

December, 1991